

気候変動適応に関する業務

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 講師派遣や研修会などの開催を大変精力的に行っており、地方公共団体の対応に大きく貢献している。【年度】
- A-PLATの運営によるコンテンツの拡充、情報発信量の増大、AP-PLATへの展開など社会(世界)貢献の一段の展開が評価される。【年度】【事後】
- 地域気候変動適応センターの地方公共団体における設置が昨年度から倍増したことは素晴らしい。【年度】

今後への期待など

- 適応研究は、時間的・空間的に様々な階層において多岐にわたるテーマを包含しているため、他の研究機関や研究プロジェクトとの連携・協働しながら、実施しないとカバーしきれないのではないか。国立環境研究所がそのハブ機能を果たすことを期待する。【事後】
- 全国自治体の環境研究所の活性化を図る上でも、今後地域気候変動適応センターの設置促進や情報提供・技術指導等を進めていただきたい。【事後】
- 短期間に精力的に取り組みを進め、計画以上の著しい成果を挙げていると評価できる。気象災害が激甚化していることから、第5期では関係機関との連携に向けた防災やレジリエンス面での貢献も大いに期待したい。【事後】
- 気候変動影響についての研究は進んでいるように思うが、適応に関する研究は端緒についたところである。戦略的には、適応の評価がさらにある、と思われるので、それに向けた準備や方針の決定が必要である。【事後】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 今後もさらに講師派遣や研修会などの開催に精力的に取り組んでまいります。
- ② 気候変動適応の社会実装に向け、個人や事業者、自治体、国、NPO、メディア等を含んだマルチ・ステークホルダーに係る視点で一層取り組んでまいります。
- ③ 地域気候変動適応センターを設置する自治体がさらに増えるよう取り組んでまいります。
- ④ 国内外に対してCCCAのミッションを明確に示すとともに、他の研究機関やプロジェクトの連携・協働に向けハブ機能を弊所が果たせるよう取り組んでまいります。現状研究面では推進費のような大型のプロジェクトが進みつつあり、協働が進みつつあり、また、研究機関連絡会の発足により他機関との連携がより進むと考えています。
- ⑤ 関係機関との連携や自治体との連携の下、地域防災やレジリエンス面でも貢献できるよう取り組んでまいります。同時に自然を利用した防災という観点から研究プログラムなどを進める予定です。
- ⑥ ご指摘の通り、影響予測に基づく「適応」に関する研究はこれから取り組むべき重要な課題と認識しております。次期中長期の適応プログラム等では個々の適応策の評価に取り組むのに加え、影響予測と適応策の策定や実施の間に存在する様々なレベルのギャップの解析や、そのギャップを埋めるための科学的知見の創出に取り組むと考えております。